令和2年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業
地域日本語教育スタートアッププログラム　報告書

団体名　　銚子市国際交流協会　　（都道府県：千葉県）

1. 当該地域の情報　（令和3年1月現在）

地域の課題	銚子市は、水産業・農業など一次産業が盛んな地域であり総人口59,109人に対し外国人人口が2,330人と、その比率は3.9%である。言い換えれば、約25人に1人が外国人である。総人口が減少するなか、年々増加傾向にある外国人住民が地域で暮らしやすい環境を作ることが不可欠である。そのためには、外国人住民が日本語を学習し、日本語によるコミュニケーション力を向上する機会をつくるとともに、地域住民も「やさしい日本語」を理解し、それを意思疎通のツールとして活用することが求められる。当協会では、試行的に日本語教室を開催してきたが、新型コロナウイルスの感染拡大のため現在は休止中である。日本語教室の場所が市の中央地区に集中していたため銚子市全域がカバーできておらず、市内の公共交通は不便で、自家用車を有していない外国人住民にとって市の東部・西部など遠方から継続して通うことが困難であった。
在住外国人数 外国人比率	銚子市人口　59,109人 外国人人口　　2,330人 外国人比率　　3.9%
在留外国人の 状況	【主な国籍と人数】 1位：中国（641人）・2位：ベトナム（527人）・3位：タイ（381人）・4位：フィリピン（354人）・5位：韓国（130人） 【在留資格】 1位：技能実習2号ロ（725人）・2位：永住者（431人）・3位：定住者（238人）・4位：技能実習1号ロ（194人）・5位：留学（180人） 【滞在年数・在留期間などの状況】 在住外国人2,330人のうち、在留期間1年3ヶ月以下が1,371人（58.8%）であり、全体的にみると流動性が高いと思われる。 技能実習生は監理会社下にいるので、比較的全体像を把握できているが、永住・定住者は個別的で実像を十分に把握できていない。
在住外国人の 日本語教育の現状	銚子市国際交流協会（CIMA）の学習部会は、試行として「ちょうし日本語教室」を2018年6月から始め、週2回（日曜及び火曜）継続的に開催してきたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、現在休止中である。 　また、両教室とも学習者が定着しない問題点を抱えており、教室の会場が銚子市内の中央地区に偏在していたことも一因と考えられることから、外国人住民が多く日本語教室のない東部、または西部地区での開催の検討やオンラインでの教室の開催を模索している。 　しかし、学習支援者の人数確保やスキル不足など、実現するためのハードルが高く、課題が山積している。また、永住者・定住者（669人）には外国籍の子どもも含まれ、小中高大の学校教育での学習や進学に関して、いろいろな問題を抱えていることが、日本語教室への問合せの中で判明しつつある。また、新型コロナウイルスの感染拡大により日本語教室が休止していることから、定住者からは、日本語教室開催の要望が国際交流協会に多数寄せられている。

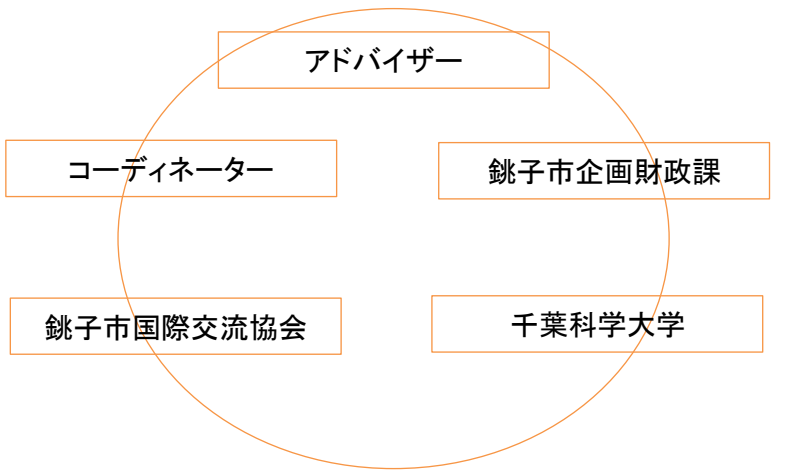
2. 事業の内容

本プログラム取組年数	2年目			
事業の目的	外国人住民を地域の産業・観光・教育等の発展に寄与する貴重な人材として捉え、銚子市総合計画にうたう「市民一人ひとりが、異文化理解を深め、外国人住民と相互コミュニケーションが図られる多文化共生のまち」を目指す。その一助とするため外国人住民が多く居住し、日本語教室のない東部地区または西部地区での日本語教室の開催、また、オンラインでの日本語教室及び茶話会サロンを開催し、外国人住民の日本語学習の機会の確保と相互コミュニケーションを図る場とする。			
事業の概要	○人材確保・育成 　（A）教室運営ボランティアの募集 　（B）日本語学習支援者の養成・スキルアップ ○事業目的の理解・共有の促進 　（A）ホームページやチラシ等による事業内容の周知 　（B）やさしい日本語講座の開催 ○ニーズ調査 　（A）茶話会サロンを定期開催し、聞き取り調査（ヒアリング）。コロナ禍のため対面からオンラインに切り替え実施 ○日本語教室の試行（準備） 　（A）東部・西部地区の外国人住民も参加しやすいオンライン日本語講座の準備 　（B）空白地域（東部地区）における教室の選定			
事業の対象期間	令和2年6月～令和3年3月			
前年度の実績 （2年目以降の 団体のみ記載）	【実態調査】 ○日本人・外国人・事業者への実態調査を実施 ○関係団体へのヒアリング 【人材確保】 ○学習支援者入門として「外国人との日本語コミュニケーション講座」の開催 【先進地視察】 ○神栖市国際交流協会日本語教室の視察（2会場）			
担当コーディネーター	氏名	所属	職名	担当する役割
	信田　宗一	銚子市国際交流協会	学習部会	ニーズ調査/教室準備
	本多　千佳子	銚子市国際交流協会	学習部会	ニーズ調査/教室準備
	髙橋　道恵	千葉科学大学	講師	人材育成/教室準備
	小濱　知子	千葉科学大学	講師	人材育成/教室準備
担当アドバイザー	氏名	所属	職名	継続・新規の別
	砂川　裕一	群馬大学	名誉教授	継続（2年目）
	神吉　宇一	武蔵野大学	准教授	継続（2年目）
	萬浪　絵理	千葉市国際交流協会	委嘱日本語教育コーディネーター	継続（2年目）

3. 日本語教室の設置に向けた検討体制

（1）地域における日本語教育の実施に向けた検討体制

検討体制

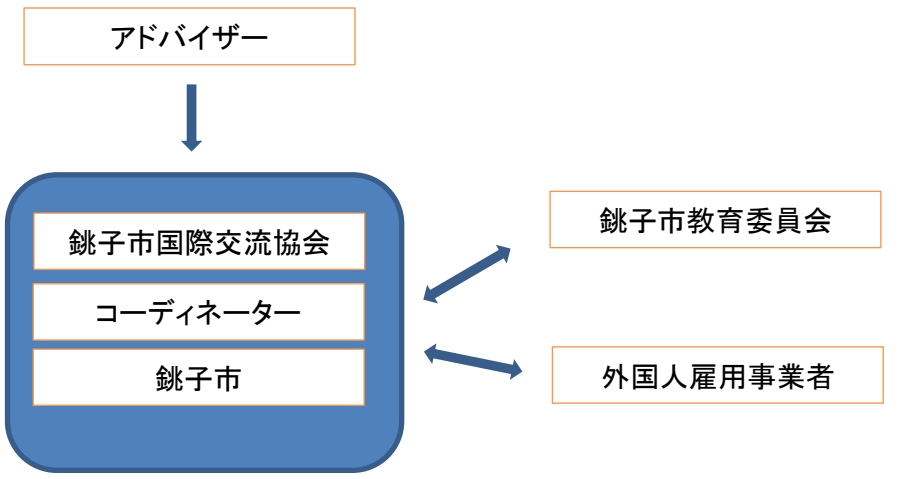


外国人住民のニーズを把握した上で、外部有識者であるアドバイザーの助言のもと、千葉科学大学の意見も伺いつつ、日本語教室運営主体となる銚子市国際交流協会、コーディネーター等と共に、目指すべき日本語教室のあり方を検討した。

所属（担当課）	担当者名	職名
銚子市国際交流協会	小川戸　周太	理事長
千葉科学大学	船倉　武夫	留学生別科長
銚子市企画財政課	飯森　美千代	企画室長
コーディネーター	－	－
アドバイザー	－	－

（2）日本語教室の実施に向けた事業運営体制図

地域の機関・団体との連携体制



銚子市国際交流協会を中心として、外国人が生活者として日本語学習をする場合の課題等を調査・分析し、関連する市各部局等へ協力を依頼。
また、外国人雇用事業者等からも日本語学習に関する情報提供をいただき、連携しながら教室活動を検討した。

組織・団体・機関名	担当部局	職名	担当者名
銚子市国際交流協会	学習部会	担当副理事長	宮内　剛
銚子市	企画財政課企画室	副主査	額賀　貴美
銚子市	その他庁内関係課室	－	－
銚子市教育委員会	－	－	－
外国人雇用事業者	－	－	－
コーディネーター	－	－	－
アドバイザー	－	－	－

4. 具体的な取組内容

(1)年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	コーディネーターの主な活動	アドバイザーの来訪
令和2年 4月			
令和2年 5月			
令和2年 6月		●事業計画	・今年度事業について助言(メール)
令和2年 7月	○コーディネーター会議(7/26)	●今年度の事業内容詳細確認	
令和2年 8月	○コーディネーター会議(8/7) ○アドバイザー・コーディネーター会議(8/23) ★小濱コーディネーター就任(8/20～)	●学習支援者(サポーター)養成講座内容検討 ●茶話会サロン実施内容検討 ●アドバイザー・コーディネーター会議出席	・活動計画詳細検討 砂川SA(Zoomによるオンライン会議) 神吉A(Zoomによるオンライン会議) 萬浪A(Zoomによるオンライン会議)
令和2年 9月	○コーディネーター会議(9/1)	●茶話会サロン実施内容検討	
令和2年 10月	○コーディネーター会議(10/14)	●学習支援者(サポーター)養成講座内容検討	
令和2年 11月	○コーディネーター会議(11/30) ○学習支援者(サポーター)のためのZoom講習会(11/14・11/20) ○実施団体情報交換会出席(11/2)	●学習支援者(サポーター)のためのZoom講習会実施 ●“やさしい日本語”講座準備 ●実施団体情報交換会への出席	
令和2年 12月	○コーディネーター会議(12/22) ○学習支援者(サポーター)のためのZoom講習会(12/11・12/12) ○“やさしい日本語”講座(12/18) ○中間報告書の提出	●学習支援者(サポーター)のためのZoom講習会実施 ●“やさしい日本語”講座実施	
令和3年 1月	○コーディネーター会議(1/12) ○学習支援者(サポーター)のためのZoom講習会(1/26・1/27) ○アドバイザー・コーディネーター会議(1/31)	●学習支援者(サポーター)のためのZoom講習会実施 ●“やさしい日本語”オンライン講座準備 ●オンライン茶話会サロン開催準備 ●アドバイザー・コーディネーター会議出席	・中間報告 砂川SA(Zoomによるオンライン会議) 萬浪A(Zoomによるオンライン会議)
令和3年 2月	○“やさしい日本語”オンライン講座(2/7) ○コーディネーター情報交換会(2/16) ○オンライン茶話会サロン(2/21)	●“やさしい日本語”オンライン講座実施 ●オンライン茶話会サロン実施 ●コーディネーター情報交換会への出席	
令和3年 3月	○アドバイザー・コーディネーター会議(3/4) ○内容報告書の提出	●アドバイザー・コーディネーター会議出席	・事業報告 砂川SA(Zoomによるオンライン会議) 神吉A(Zoomによるオンライン会議) 萬浪A(Zoomによるオンライン会議)

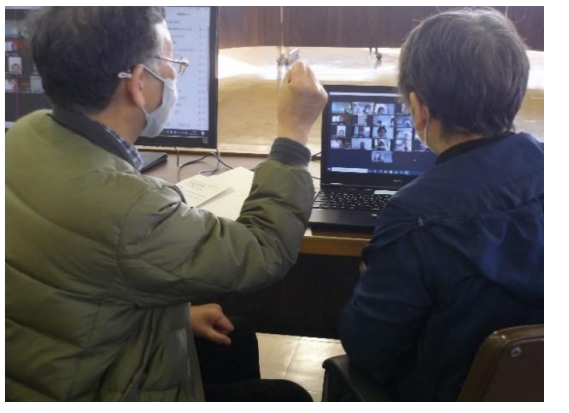
（3）その他関連する取組

取組名称	実施期間	内容
学習支援者（サポーター）のためのZoom講習会	2020年11月 ～ 2021年1月	新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、オンラインでの日本語教室の開催も視野に入れ、学習支援者（サポーター）に対し、Zoomの使い方講習会を実施。 ❶Zoomの登録方法 ❷招待の方法 ❸画面共有の方法　など
“やさしい日本語”講座	2020年12月18日 2021年2月7日	地域で暮らす外国人と日本語でコミュニケーションを取るための“コツ”を学ぶための講座として2回実施。 1回目（12/18）は、銚子市職員を対象に“やさしい日本語”の基本から学び、窓口での対応方法についてなど、DVDで場面を見せながら学習した。 2回目（2/7）は、一般市民を対象に初めてオンラインで実施した。内容は、“やさしい日本語”への変換の方法など基本的な内容とした。
オンライン茶話会サロン	2021年2月21日	新型コロナウイルスの感染拡大により、家で過ごす時間が増えたことを受け、オンラインで交流する場として「オンライン茶話会サロン」を開催。 銚子についてのクイズやゲーム、グループに分かれての意見交換などを実施。 参加者は、銚子市国際交流協会会員及び市内に居住する外国人への周知等により行った。 参加者　22人
銚子市地域おこし協力隊との連携	2020年11月～	銚子市が10月に委嘱した、多文化共生を推進するための”銚子市地域おこし協力隊”と永住者・定住者の日本語教育に関する意見交換を実施。今後の本プログラムや協会事業への協力体制を築いた。

【主な活動】

（11/14開催）
学習支援者（サポーター）のためのZoom講習会

（12/18開催）
“やさしい日本語”市職員向け研修



（2/21開催）
オンライン茶話会サロン

5. 今年度事業全体について

進捗状況	当初計画では、対面での学習支援者（サポーター）養成講座や茶話会サロンを実施予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大により、実施する主な事業を対面からオンライン（Zoom）での開催に変更した。同じく、2月に実施予定であった日本語教室の試行も、翌年度開催へ繰り越した。
事業推進にあたり問題点と対応策	事業実施にあたり、新型コロナウイルスの感染拡大による影響は非常に大きく、事業内容の変更を余儀なくされたが、オンラインでの事業実施は、移動に要する時間や会場を押さえる手間など不要になった部分も多く、効果的であると感じている。 また、市教育委員会を通じて外国人住民が多い地域（小中の学区）への視察を実施予定であったが、2回目の緊急事態宣言で先送りとなっている。
成果	○学習支援者（サポーター）のためのZoom講習会（3回：延べ35名参加） ○“やさしい日本語”市職員向け研修会（20名参加） ○“やさしい日本語”オンライン講座（9名参加） ○オンライン茶話会サロン（22名参加）
地域の関係者との連携による効果	新型コロナの影響による「特別定額給付金」の支給事務では、庁内担当部署からの依頼により国際交流協会が窓口となり、平時から連携の取れている技能実習生受入主体への橋渡しを行い、実習生への周知など申請手続きをスムーズに行うことができた。 オンライン茶話会サロンでは、一般市民の外に市内の千葉科学大学の学生（日本人・留学生共に）が参加するなど、相互コミュニケーションが図られる良い機会となった。 また、昨年10月に委嘱された銚子市地域おこし協力隊が多文化共生を推進する事業の一つとして、外国人住民向けの生活ガイドブックを“やさしい日本語”で作成するなど、生活者としての外国人に寄り添う活動を本協会と連携して行っている。
コーディネーターの主な活動	①会議【アドバイザー・コーディネーター会議及びコーディネーター会議】（80H） ②人材育成【やさしい日本語講座・Zoom講習会】（38.5H） ③ニーズ調査の実施【オンライン茶話会サロン】（17H） ④その他【コーディネーター情報交換会】（15H） ※コロナ禍のため、②、③は対面からオンラインに予定を変更し実施
アドバイザーの主な助言	○オンライン茶話会サロン実施についてのアドバイス（時間の使い方など） ○日本語教室試行に向けた学習内容について（教室活動でのトピックについてなど） ○関係者において「理念や目的・目標の共有」を繰り返し確認すること ○市内に多く在住する永住者・定住者が教室のサポーターとして活躍できる体制づくり
今後の課題	○事業の理念に沿った教室活動の内容検討 ○学習支援者の確保とスキルアップ ○日本人・外国人双方への事業周知 ○オンラインでの実施に向けた体制作り ○空白地域を解消できる日本語教室の開催場所の選定 ○支援を必要とする外国人の洗い出し及び日本語教室や茶話会サロンへの参加を促す手段の確保
今後の予定	○ホームページやチラシ等での情報発信による多文化共生理念の啓発 ○定期的に茶話会サロンを開催し外国人の居場所づくりを行う ○学習支援者（サポーター）の研修等を実施し、ボランティアの横の繋がりを促し、モチベーションを保つ ○空白地域における日本語教室の試行

本件担当　：　銚子市役所企画財政課企画室